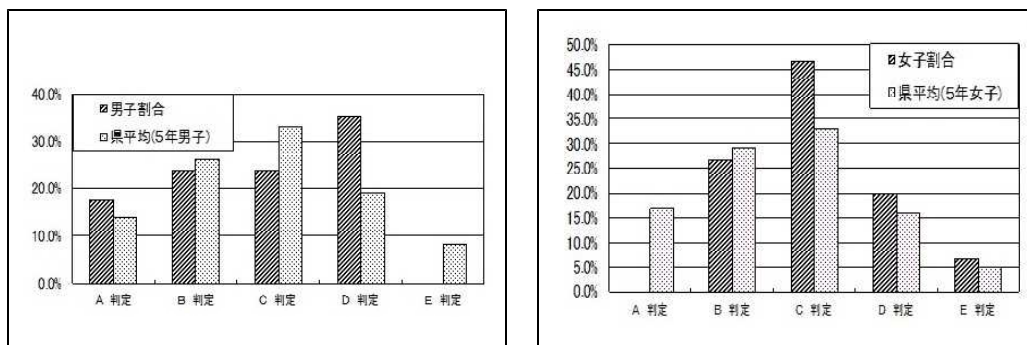


日 時：平成 28 年 1 1 月 2 5 日（金）14:00～14:45
 場 所：海南市立大野小学校 体育館
 学 級：5 年 A 組 3 4 名（男子 1 7 名 女子 1 7 名）
 授業者：山下 勝也 教諭

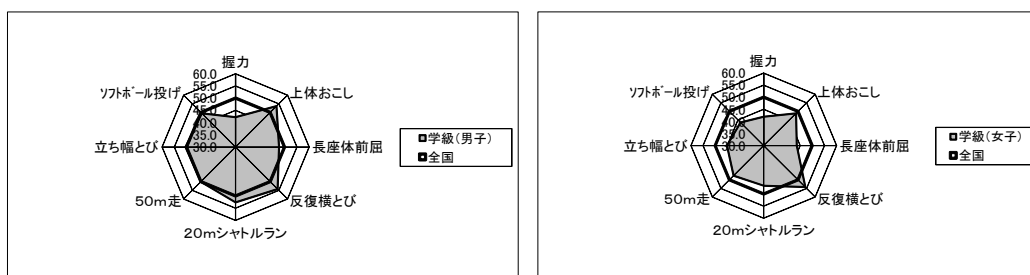
- 1 単元名 ボール運動【ネット型】「ソフトバレーボール」
 ーつなごう！ボールとチームの輪ー
- 2 指導にあたって

【平成 28 年度児童生徒の体力・運動能力調査結果から見た児童の実態】

〈グラフ 1〉 判定別割合（男女別）



〈図 1〉 Tスコアによる全国比較図（男女別）



（児童観）

本学級（男子 17 名、女子 17 名、計 34 名）は、元気で明るく活発な児童が多い。しかし、女子は全体的におとなしく、まじめにがんばるが、なかなか大きい声を出せない児童も多い。9 月に行ったアンケートでは、34 名中 32 名が体育の授業を「好き」、または「得意ではないが好き」と答えている。しかし、男子のほぼ全員が休けい時間に外で元気に遊んでいるのに対し、女子は、運動することに消極的で、教室で本を読んでいる児童が多い。1 学期に実施した新体力テストの結果は、A 判定 3 名、B 判定 8 名、C 判定 11 名、D 判定 9 名、E 判定 1 名であった。特に、女子はほとんどの種目で全国平均を下回っており、決して運動能力が高い集団とは言えない。また、自分の考えや意見を声に出して相手に伝えることの苦手な児童が多く、「かかわり合い」という面では、

まだまだ不十分である。

(教材観)

ソフトバレーボールは「ネット型」の運動で、ネットをはさんで2チームが分かれ、自分たちのコートで相手に邪魔されることなくチームでボールをつなぎながら得点を競い合うボール運動である。コートがネットで区切られているため、攻守がはっきりと分かれ、連係プレーによる攻撃や相手に合わせた守備など、作戦を立てやすい。したがって、接触プレーや攻守の切り替えの多い運動に比べ、運動が苦手な児童でも安心してゲームに参加することができる。また、ボールをうまくつなぐためには、ボール操作の個人技能を習得しつつ、チームとしての集団技能を高めていくことが必要となる。ボールをつなぐために友だちの名前を呼んだり、失敗がそのまま相手の得点につながったりすることが多いので、励ましの声やサポートする動きが重要となってくる。

このように、ソフトバレーボールは、攻撃するときの作戦を考えたり相手に合わせて守ったりと、チーム内の役割をはっきりさせてゲームを行うことができる。また、得点が入るたびに、みんなで喜び合えるといった集団的達成感を味わわせることもできる教材であるといえる。

(指導観)

本学級の児童は、男子は活発な児童が多いが、女子はおとなしい児童が多い。また、運動能力においても個人差が大きい。そこで、運動経験が少なく、個人差も小さい「ソフトバレーボール」において、みんなでかかわり合いながら、上達し合えるようにと、この単元を選んだ。そこでまず、ソフトバレーボールのDVDを見て、「ルール」や「得点方法」「授業の進め方」などを説明し、基本的な知識を身につけた上で、みんなで楽しく活動するための「自分たちのルール」を考えさせたい。また、34名ということで2コートでは運動量を確保できないため、4コートを設置し、8チームに分けて活動させたい。

単元を通して、チームで協力して学習する場を設定することにより、友だち同士で認め合い、励まし合いを深め、意欲的に活動する態度を育てたい。また、自分たちのチームの課題を明確にし、プレー面だけではなく、解決に向けての話し合い、自分たちに合った作戦の工夫など、話し合う機会を多く取り入れ、「かかわり合い」という面もしっかり育てていきたい。そして、これらを評価の題材として活用し、目標・指導・評価の一体化を図りたい。

3 単元の目標

(技能)

サーブ、レシーブ、パス(トス)、スパイクなどの基本的なボールの扱い方を身につけ、チームの中で作戦や状況に応じて、ボールをつないだゲームができる。

(態度)

チームでのかかわり合いを通して、互いに認め、励まし合いながらゲームを楽しもうとする。ルールやマナーを守り、安全に気をつけながら運動する。

(思考・判断)

基本的な動きやルールを理解し、チームの力にあった簡単な作戦を立てている。話し合いを通して、みんなが楽しめるようにルールを工夫したり、考えたりしている。

4 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none">・ 集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるよう、ソフトバレーボールに進んで取り組もうとしている。・ ルールやマナーを守り、友だちと助け合って練習やゲームをしようとしている。・ 運動をする場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。	<ul style="list-style-type: none">・ ゲームの行い方を知るとともに、簡易化されたゲームを行うためのルールを選んでいる。・ チームの特徴に応じた攻め方や守り方を知るとともに、自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。	<ul style="list-style-type: none">・ 簡易化されたゲームでチームの連携による攻撃や守備をするための動きができる。
学習活動に即した評価規準	<ol style="list-style-type: none">① ドリルゲームやメインゲームに進んで取り組もうとしている。② ルールやマナーを守り学習形態に応じて友だちとかわり合いながら練習やゲームをしようとしている。③ 安全に気をつけて準備や片づけをしたり、自分の分担された役割を果たしたりしている。	<ol style="list-style-type: none">① 自分たちが行うソフトバレーボール（簡易化された）の行い方を知っている。② みんなが楽しさや喜びに触れることのできるルールを選んでいる。③ 自分たちの特徴や課題を知り、作戦を立てている。	<ol style="list-style-type: none">① 正確なボール操作（サーブ・レシーブ・トス・スパイク）ができる。② 素早くボールの落下点に入り、パスができる。③ 三段攻撃を意識した動きができる。

5 指導と評価の計画・・・別紙参照

6 本時について（本時 6 / 9 時）

（1）目標

（技能）セッターの方に体を向け、ボールをセッターにつなぐことができる。

（態度）友だちに対して、意欲的に声をかけることができる。

（思考・判断）みんなが楽しくゲームするためのルールを考えている。

(2) 展開

	学習内容・活動	○教師の指導・支援及び評価(☆)
導入	1 場の準備をする 2 準備運動を兼ねて、ボール慣れの運動をする。 ・円陣パス	○ボール操作の苦手な児童を中心に観察し必要に応じて声をかける。 ○よい動きをしている児童を称賛し、記録向上につなげる。
展開	3 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">レシーブをセッターにつなごう！</div>	○前時までの振り返りなどから、本時のめあてを全体で共有する。
	4 ゲーム形式での練習 ゲーム① (5分間) ○得点はつけないで、4コートで学習課題の練習を行う。 ○兄弟チームでお互いの動きを確認し、アドバイスし合う。 ゲーム②-1 (7分間) ゲーム②-2 (7分間) ○2コートに分かれてゲームを行う。(兄弟チーム以外のチームと対戦する。) ○兄弟チーム同士でアドバイスし合ったことを意識しながらゲームを行う。 ○チームでの振り返りをする。	○めあてを掲示し、意識して学習に取り組めるようにする。 ○ルール変更について確認する。 ○兄弟チームでゲームをしながら、学習課題を確認させる。 ○学習課題にそった動きができていない児童を称賛し、できていないチームがあれば動きを止めて確認する。 ○兄弟チーム同士、互いに声をかけさせる。 ○ゲーム中、互いに声をかけさせる。 ・友達のよいプレーを認める声、励ます声、アドバイス ・よいプレーを認める動作(拍手・ハイタッチなど)、励ます動作 ○セッターにつながれば、チームを称賛する。 ☆セッターの方に体を向け、ボールをセッターにつなぐことができる。【技】
まとめ	5 学習の振り返り ○学習カードに記入 ○次時の課題を確認する。 ○ルールの確認をする。	○学習課題をワークシートに振り返らせる。 ○学習課題にそった、よい動きを全体で共有する。
	6 片付け	

8 考察（成果と課題）

テーマ	互いに認め合い、運動の楽しさとできる喜びを実感できる体育 ～かかわり合い、高め合う大野っ子の育成～
-----	--

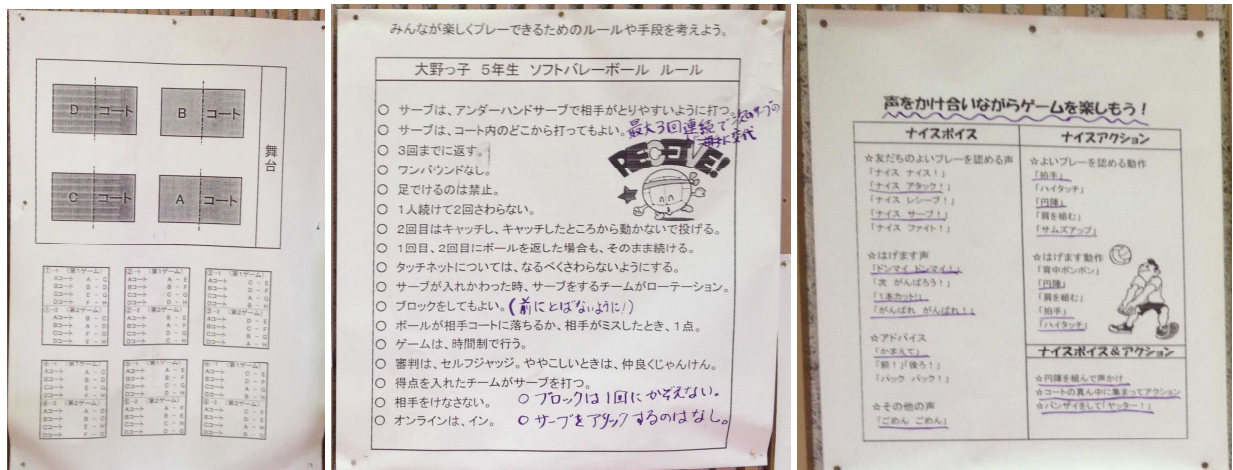
(1) 児童生徒の実態を踏まえた単元計画（学習過程）の作成について

簡易化されたルールにおいて、6年生の学習につなげていくため、「三段攻撃を意識した動きができる」ということを目標に、パス、サーブ、レシーブ、トス、スパイクに分けて、単元計画を作成した。1時間毎のめあてを1時間内で習得するのは非常に難しいと考え、できる限り運動量を確保するため、4コート設定した。また、かかわり合いという面から兄弟チームを作り、お互いに高め合えるような授業の流れを考えた。その結果、1時間内では習得できないものの、時間数が経過するにつれて、結果的には、目標としていた三段攻撃を意識した動きができるようになった。



(2) 児童生徒が、主体的に学習に取り組めるような授業づくりや学習形態の工夫について

- ・ルールは、簡易化した基本となるルールを教師から提示し、実態に応じて、その都度みんなでも話し合い変更していき決定した。
- ・学習カードについては、意欲を高めるため、個人用とチーム用を準備した。
- ・グルーピングについては、運動能力と友だち関係を考えながら、特にいつも関わっていない児童ともっと関わってほしいと願い、教師が決めた。
- ・場の設定については、運動量を考え、4コート設定した。
- ・得点板が足らなかったため、軽く持ち運びやすいものを作成した。



(3) 指導と評価の一体化に向けた取組等について

- ・「セッターを意識する」のは、「思考」なのか「技能」なのか迷ったが、思考の部分は教え、体を動かす部分で意識してほしいと考え、「技能」とした。
- ・学習カードを個人用とグループ用を準備したが、振り返り時、両方活用できず、中途半端になってしまったので、能率のいい学習カードを検討していきたい。
- ・単元の系統を考え、各学年での評価規準を明確化し、具体的にどこまですればよいのかを決めておく必要がある。



(4) その他

お互いに声をかけ合ったり、動きを指示したり、励まし合ったり、喜んだりといったゲーム中でのかかわり合い、また、グループや兄弟チームでの振り返りにおけるかかわり合いを大切に取り組んできた結果、全員が大きい声を出し、楽しくプレーすることができるようになった。また、学級活動やその他の学習においても活かされた。